

見沼中学校区義務教育学校に関する説明会 会議録（荒木・地区）

- 1 開催日時 令和2年10月27日（火）午後6時～午後8時50分
- 2 開催場所 荒木公民館ホール
- 3 出席者 47名
- 4 教育委員会 鈴木教育長
 学校教育部 吉田部長、荻原参事、諸貫次長
 学校教育課 須永主幹
 教育総務課 上野主幹、久積主査、柏瀬、田沼

5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
鈴木教育長	2 あいさつ
諸貫次長	3 経過報告について説明
鈴木教育長	4 義務教育学校の設立について説明
出席者	5 質疑 体格に合わせて洗面台などの高さの調整をするというが、予算は教育委員会では組めないのではないか。
吉田部長	今後、12月議会に設置管理条例を改正する議案を提出する。義務教育学校をこのまま進めて良いかを含めて議論され、承認をもらえれば予算などを議会へ提出する。
出席者	8月20日に要望書を教育長に提出した。中身は嘆願書と同じような内容だが、同時に荒木を代表する方の署名を添えて持っていった。8月末までの回答をお願いしたが、10月に入ってから回答をもらった。経過説明に入っていないので付け加える。
吉田部長	回答が遅れた事は申し訳ない。
出席者	去年、やすらぎの里で3度説明会を聞いて、教室が足りないから増設すると説明があったが、市長のタウンミーティングでは、お金がなく、工夫すればできるとの事で非常に乱暴な見解だなと思った。このガイドブックを見ると、教室が足りるという説明だが、資料2の中2は42人

	<p>いて、2クラス必要になって、教室は足らなくなるのではないかと。特別支援学級の子が含まれているかはわからないが、非常にきつく、教室が足りないと考えている。配置図を見ると余裕がない状況だと思う。その辺りの説明をお願いしたい。また、教育長は昨年の説明で「誰もがうらやむ学校を作りたい」と言ったが、他地域からも受け入れるのであれば、今度出来る学校は素晴らしいと言えるように、施設・設備を整えるためにお金をかけなければいけないと思う。義務教育学校で見沼中の利点を感じられない。学校の存続が危ういという事で小学校を入れれば人数が増えるという事だが、見沼中自体はまったく増えない。だとしたら、南河原中の統合を考えるべきだと思う。北部地域の学校の存続を考えているのであれば、北部地域で土地を取得して、新しく学校を設立して、お金をかけて、魅力ある学校の義務教育学校を作るのであれば我々も納得する。現時点では、見沼中のっては何のメリットもない。中学校の先生の話聞いてもメリットを感じない。10年後に統合を考えるという計画になっているので、見沼中学校区で義務教育学校を作っても10年後にはまた先の事を考えないといけなくなる。そのため、市長も無駄なお金をかけたくないという考え方なのではないか。だとしたら、義務教育学校の狙いはわかるが、将来的な事を考えればもう少しその辺の議論を進めて行ってほしい。見沼中学校区の義務教育学校はゴールではないのであれば、そちらも考えていかなければ、この計画は現実味のないものと考えている。教室の問題、見沼中の将来、南河原地区との統合を明確に打ち出して行ってほしい。</p>
<p>諸貫次長</p>	<p>施設についてはガイドブックの6ページに配置を載せている。確かに昨年度の説明会では増築と話をした経緯もある。その時は12クラスを想定していたので不足するという予定だったが、10クラスの想定になった。中学2年については、今の5年生のクラスになるが、特別支援学級の子が40人を割るくらい的人数がいる。そのため、8年生は1クラスを想定している。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>今後の見沼中学校区のあり方についてだが、恵まれた環境の中で子供達が育っていく事が望ましいし、目指したい所である。改修になったのは市長がお金の事だと言っていたという事だが、実際にそれを受けて色々考えた。その中で子供達に夢を持たせ、充実した教育が出来るものは何かを探りながら、ここまで来た。部活や10年後を含めての中学校のメリットだと思うが、中学校にとっては小学校段階から専門的・系統的な授業を受ける事、社会性を育てていく事で教育の質などの一番学校教育で力を入れていかなければならない部分は、効果があると思ってい</p>

	<p>る。それは、これまでやっている義務教育学校の成果やメリットの所でも出ている部分である。10年後になくなってしまいう事については、Q20にもあるが、10年後には見沼中学校区を含めた北部地域全体で計画している。今の所、実際に10年でという区切りはある。ただ、そこではどのような形で北部地域に学校を存続させていけるかの判断の年だと思う。北小の耐用年数が来て、2年後に南河原小学校の耐用年数が来る事を含めて、適正規模の人数に近づけるという意味での判断になる。今やっている事は無駄ではないかという意見もあったが、子供達にとっては、1年1年は取り返しのつかない掛け替えのない1年だと思う。教育委員会として、義務教育学校を成功させるため、教師の力、子供達の力、カリキュラム上の工夫を市内各校に先進校として発信できるような充実した教育とするために、教員の配置を含めて全力で力を入れていきたいと考えている。その1年1年を子供達が積み重ねていく事は10年後に無駄ではないと思っている。そのノウハウを蓄積する事が、新たな義務教育学校に生きてくる。ゼロから始めるのではなくて、10年間積み重ねたものが、子供達や先生の力になり、次に繋がっていくと考えている。それだけの成果を上げるだけの、出来る事は最大限やろうと考えている。</p>
出席者	<p>今質問のあった見沼中問題も重要な問題だと思う。当初、教育委員会は小学校の複式学級解消が一つのメインという事でやっていて、もちろん複式学級解消も重要であるが、今の話からすると、中学校の人数が少ないから義務教育学校にするというのはすり替えという気がする。ここで義務教育学校を作ったとしても、部活動で野球部やサッカー部が出来るかと言うと無理だと思う。別途考えないといけない問題だと思う。</p>
鈴木教育長	<p>その通りだと思う。先ほどは、見沼中のメリットに部分に言及していたので、そこに焦点化して話をした。基本的には複式学級の解消と共により質の高い教育をしていく、北部地域に学校を残すという観点からの義務教育学校を考えている所である。</p>
出席者	<p>コロナの中で、公民館だって人数制限をしているのに、人数を集める事について、危険性は考えないのか。</p>
鈴木教育長	<p>コロナについてはまた増えてきているので、厳戒態勢を取っている。人を集める事に危険はあるかについては、現時点では危険はあると考えている。学校行事も皆さんに理解を得ながら縮小や中止をしている。ただ、子供達にとってどのような教育内容が必要かという事や適正規模の</p>

	<p>問題を考えるために小学校3校に課題を聞いたら、人数が少ない事により積極性が育たない、指示待ちになってしまう、自分がやる前に全てが整ってしまうのでそのような力が育たない、切磋琢磨ができないという課題が出てきた。とにかく社会性を育てていきたい。多くの学校を再編することによって、どんな広い世界に行っても自分の考えが述べられて、やっていける社会性を育てていきたい。以前の統廃合がうまくいかなかった反省が、市として基本的な方針がなかった。そこを含めて通学区等審議会ですべての編成計画を作った。クラス替えができる2クラスを適正規模として考える事になった。そうすると、市内に中学校4校、小学校7校としていく事で、適正規模を確保できて、教育の充実が図られる。東西南北で見た時に、その基準だけだと、見沼、北小、南河原を含めても北部地域では、実現が厳しいという見通しがある。人数だけで分けるというのは教育的ではないと思う。学校は地域と共に出来ているものだと思うので、少なくとも北部に学校を残したいという意味で計画を策定した。ただ、中学校同士、小学校同士では30～40年後を見た時に、遠からず存続が難しくなってくるという事で、北部地域だけはたとえ1クラスであっても、きめ細やかな指導と共に、義務教育学校として質の高い教育を実施していきたいという事で、計画を策定して進めてきた所である。</p>
出席者	<p>荒木地区の嘆願書が80%以上反対と出ているが、数字の重さをどのようにとらえているのか。もっとないと駄目なのか。計画が変更できないのか。確かに良い面もあると思うが、今の6-3制でも十分に質の高い教育ができるのではないかと考えている。</p>
鈴木教育長	<p>80%の反対という嘆願書は重く受け止めている。嘆願書の提出時に一緒に来た保護者からも説明を聞いていない、足りないという意見があった。嘆願書とその保護者に応える形で再度このような説明会をしている。また、現在、保護者に意向調査をしているが、その内容によっては、中止という事ではなく一度立ち止まる事もあり得る。6-3制については、小中一貫教育を進めている所だが、学期や季節的な行事として何回か、場合によっては卒業期にやっと中学校との勉強をするというのが現状である。この先、小中一貫教育を進めていくとなると、中学校の先生が小学校に出かけて行って授業をする事もできるが、一体型になっていると学力や意欲の低下が見られるミドルの頃から、接続をスムーズにして、質の高い専門的な教育が日常的に時間割の中で組んでいける事が義務教育学校の特色である。</p>

出席者	<p>住民の理解が得られなければ計画を実行しないと最初に聞いた気がする。この80%の重さをどのように考えているのか。止まる事もあるかもしれないという話があったが、予算の面を考えれば、多額のお金を使ってやるよりも今の施設を使って、さらに10年後の姿を見据えて10年間を過ごすという手もあるのではないか。</p>
鈴木教育長	<p>先ほどと繰り返になってしまうので、今の意見についても重く受け止めたいと思う。</p>
出席者	<p>8ページの授業の部分を見ると、頭のいい子を育てるために、今までの小学校が英語を教えていない所に、小学校1、2年生から英語活動を入れる。これは、他の体育とかの成績を悪くしても、英語の出来る子供を育てるという基本方針なのか。そうでなければ、子供に遊ぶ時間を与えないで、親が無理して塾に通わせるのと同じで、他の小学校と違う事を教えているという事になる。子供がそんなのは嫌だと言って、学校に来る人が少なくなると思う。</p>
荻原参事	<p>現在、他の小学校でも1、2年生は月1回、年間10回程度、英語活動を既に実施している。これは国で定めている授業時間数のプラスアルファでやっている部分。活動なので子供達はリズムを取ったりして、ALTや担任と楽しく活動している。1、2年生で慣れ親しんだ結果、3年生以降の英語活動に繋げていく。現在も行っているものと理解していただきたい。</p>
出席者	<p>英語が特に書いてあったから言っただけで、要は中学校の先生が来て教えるという事は、小学校で教えないことも教える事になるのではないか。そうすると、小学生は余計に覚えなないといけなくなるし、授業内容が違ってくるのではないか。義務教育学校の生徒はどんどん新しい事を教えられて、頭がパンクするのではないか。</p>
鈴木教育長	<p>英語に力を入れていくという所は、学力向上の一つだと思っているが、1～2年生の英語活動はALTが常駐する事になるので、より楽しく、英語に慣れ親しむ活動が更に充実していく。担任とALTで楽しい内容になっていくと思う。3～4年生になると、さらに基礎の上に立った学習になると思うが、ALTが常にいる事で他の小学校よりも充実した英語活動になると思う。この段階までは、これまでの学習指導要領に則っているもので、大きな差はない。今年から始まった学習指導要領では、5～6年生から英語が教科になった。今までは英語活動という事で、音</p>

<p>出席者</p>	<p>楽のリズムや会話を楽しんだりしていたが、教科書ができて、それに基づいて学習を進める事になったので、5～6年生からは専門の先生が入って、きちんと基礎を作って、中学校段階につなげていく。英語だけ時間を多くとってやっていくという事はない。</p> <p>今回初めて説明会に参加して、初めて聞くような事もあった。子供が少ないから一か所に集めようという話だけだと思っていたが、勉強の内容が1歩も2歩も進んだ内容を教えていき、市内の他の中学校と差を付けているようにも聞こえた。気になるのは、今の6-3が4-3-2の区切りになると、先生の意識も変わってもらわないと違ってくるのではないか。今まで6-3で教えてきた先生が赴任してきたら、先生の意識を変え、それに対応した教育をしてくれるのかという心配が出てきた。その先の高校の受験は同じ内容を受ける事になるが、そこでどのような差が出るのかわからない。みぬまグローバル科も教育にどう影響するかは正直よくわからない。最初に説明を聞いた時に、簡単に言うと見沼中を偏差値の高い高校を目指すための学校に変えていくのかなと思った。それを希望する他の地区の保護者が見沼中に入れさせたいと思えば人は集まるかもしれないが、その辺がはっきりとわからないという心配な所であると感じた。20～30年先の事も考えて、市内全体でそのような形にしていくモデルケースとして見沼中をやりますという事であれば、その辺をはっきりしてもらった方が親としては納得できる部分もある。他の地区からたくさん来るとなり、クラスの定員があふれるという時に受験みたいな事をさせる事もあり得るのかと思った。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>小中の先生の意識改革は、どこの義務教育学校でも言われている。小中の先生の壁はある。小学校段階では担任制なので常に子供達と一緒にいて、一人一人の子供の事がよくわかっている。中学校は教科担任制なので、担任はいても小学校程、逐一見るという事はできない。授業一つとっても小学校でやっていることが中学校に繋がっていない現実もある。小学校と中学校合同で研修した時に中学校側から「小学校では分数をこうやって教えているのですか」と質問があり、小学校と中学校の指導の内容が系統的に共有されていない現実もある。発達段階も文化も違うので、意識の差はある。今まではそれぞれの学校に校長1人と教員組織があり、その学校の教育目標と目指す子供像があるので、小中一貫教育をするために、すり合わせながらやっている部分がある。義務教育学校では一人の校長のもとに一体化した指導を行っていく面では、開校までの間に指導や意識や文化の差をなくしていかなければならないと思う。大きな課題の一つだと思っている。</p>

<p>諸貫次長</p>	<p>他から子供達を受け入れる事については、小規模特認校という制度があり、受験してもらイメージではなく、基本は地域の方が行く学校となる。子供達が減ってしまうのではなく、クラスの子供達を維持するために他から受け入れる事が可能となる。他と同じような学校だと選ばれないので、特色を持った義務教育学校を設置する。先着や抽選など方法は色々あるが、定員を設けて抽選にするのが一般的かと思う。基本的には市内から来てもらう。</p>
<p>出席者</p>	<p>他の中学校と教育の内容が1歩2歩先に行っている気がするが、特化した先生が来るわけではないだろうし、別の3年制の中学校から見沼中に入ってきて普通に教えるだけであれば、確かに何の変化もない。でも、目標は違う。市の上の県教育委員会まで考慮した上で、先生の配置をするという事か。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>先生について他の学校と異なる部分は、小学校と中学校両方の免許を持っている先生が原則配置される。令和4年開校に向けて何年も前から計画的に配置している。両方の子供達の心がわかり、指導内容がわかり、指導が出来る先生を入れていきたい。他の小・中学校までやるとなると難しいので、義務教育学校だからこそ計画的に配置していきたい。授業の内容は、小さい頃から専門性のある授業をしていくので、学力だけでなく社会性など色々な面で伸びる所はある。他の学校との違いについては、学習の内容は全国共通の学習指導要領に基づいて行っていくので変わらない。編入してくる子、転出する子がいても、溝や段差がない様に学習指導要領に基づいた内容をしていく。みぬまグローバル科についてだが、SDGsを2030年までに学校教育の中でも育てる事が学習指導要領に新しく入ってきた。今までどこの学校でもやっている総合的な学習の時間を柱にやっていく。普段の学習内容はあまり変わらないかもしれないが、1年～9年まででやっていく事を一つの特色として掲げている。</p>
<p>出席者</p>	<p>3つの小学校の保護者に説明会を開いたが、保護者アンケートを26日に配布した。その結果、一旦停止を考えるとという話だが、保護者のアンケートだけを参考にして、地域の声は聞かないのか。地域における学校というのは、教育委員会が考える以上に社会インフラになっている。様々な学校行事についても地域は協力をしているし、誰よりも地域の子供の事を考えている。今現在、通っている保護者は大事だが、これから通う子どももいる。荒木地区の1400名を超える反対の署名が集まっ</p>

	<p>ている。世帯数でいえば80%が反対を表明している。重く受け止めると話しているが、言葉だけで軽く言っていると感じる。やはり保護者だけの声に耳を傾けるのではなく、地域の声にも耳を傾けてほしい。須加は地域全体のアンケートであって、保護者だけのものではないからアンケートを取りたいというのは理解できる。北河原地区においてはアンケートすら取っていないので、保護者の声を聞きたいというのは理解できる。ただ、荒木小の保護者は既に署名が終わっていて、教育委員会に提出している。なぜ荒木小の保護者にアンケートが必要なのか。義務教育学校に反対、荒木小の校舎・用地を使う事に賛成、過小校の受け入れに賛成というテーマで署名活動をしているのだが、聞くところによると、義務教育学校に反対だけでなく、荒木小の校舎・用地や過小校の受け入れが入っているから、再度アンケートを取るという説明をしたと聞いている。はっきり義務教育学校に反対と書いてあって、2番3番はそれを否定しているわけでないから、当然反対という事を表明していると思う。アンケートの中身を見るとシンプルに義務教育学校に賛成か反対かとなっている。教育委員会が集計して何をするつもりなのか。結果は開示してもらえるのか。匿名になっているが、当然匿名でないとおかしいと思う。アンケートの現物を要求すれば見せてもらえるのか。</p>
吉田部長	<p>地域の意見については、荒木地区は地域と保護者の意見は同じようにもらっており、重く受け止めている。学校なので、まずは保護者の考えを知りたいという事で保護者を対象にした。荒木の嘆願書があるから改めて行う必要はないのではないかについては、教育委員会が計画しているのが義務教育学校なので、その部分の1つに絞って意見を聞きたいと考えている。公表については、ホームページなどで公表する。</p>
出席者	<p>29日を回答期限としてアンケートをするが、それで判断するという風に聞こえるが、地域の説明会は単に話を聞く、自分達の意見を言うだけのためのもので、参考にしないのか。</p>
吉田部長	<p>意向調査の結果はどのような結果になるかわからない。そうした場合に、この説明会で出た地域の意見については、今後進める中で反映していかなければならないと思っている。</p>
出席者	<p>反映すると言うが、何をどのように反映するのか。アンケートの結果で判断するという風に聞こえる。地域の声は当事者でないから関係ないという風にしか聞こえない</p>

吉田部長	反対という署名があったので、まず教育委員会で何ができるかを考えた結果、説明会をすることにした。
出席者	説明しただけで、地域の住民の意見は聞かないということか。
吉田部長	今後、事業を進める中で色々な意見を反映していきたい。
出席者	保護者の意見しか聞かないと言っているのではないか。
吉田部長	進めるか進めないかの判断は保護者の意見を参考にする。今後進める時に皆さんの意見は参考にしたい。
出席者	10月に荒木の開校準備委員会委員長が辞任した。4月に須加の副委員長が辞任している。一身上の都合となっていると思うが、それぞれが教育委員会の義務教育学校設立に問題があると感じて辞任したものと思われる。地元的意思を感じ取れない教育委員会にノーを突き付けたのだと思います。一般の委員ではなく、委員長と3人の副委員長の内の1人が辞任したので、幹部4人の内2人が辞任した事になっている。すでに教育委員会が進める義務教育学校は指示されていないと考えられている。ここで原点に帰って一度白紙にした方が良いのではないか。
鈴木教育長	これまで尽力いただいた委員長・副委員長には感謝している。須加や荒木から上がった声を重く受け止めて、義務教育学校を進めるのか進めないのかについて、考え所にきている。再度、保護者や地域の説明会をし、反対になった時には荒木地区から提案のあった1～3の内容も十分に検討していきたい。教育委員会だけで変更という訳にはいかないので、色々な場を設けて考えていかなければならない。その時には荒木地区の80%の意見というのは重く受け止めながら考えていく。
出席者	この状況では引き続き準備委員会に入ってくれる人はいないと思う。自分もこの反対の中で準備委員会に行くというのは重たいと感じている。
鈴木教育長	立場的に悩んでいる気持ちは伝わってくる。会長も色々な思いの中で辞任されたと思うので、感謝と共にそういう気持ちを持たせてしまった事は申し訳なかったと思う。結果が出たら、開校準備委員会に報告しながら、再度あり方についても検討していく。

出席者	<p>これを進めていくに当たっては、地域の協力が非常に必要になってくると思う。特色ある教育の中身を見ていると、やはり学習指導要領の中で行われているものであって、自分が新しい義務教育学校に赴任して働きたいと言われても、あまり魅力を感じない。他の学校から来るような魅力のある学校にするためにも、もう少し考えていく事が必要と思う。例えば、外国語教育についても、さいたま市であれば、グローバルスタディという学習指導要領の時間よりも多くの英語学習を取り入れている。小学校低学年であれば年10回の所を35時間、3・4年生であれば70時間近く、中学校も学習指導要領上は140時間だが200時間近く行っていて、全国の英語学習の中でも成果を上げている。そういう所の魅力があると保護者として、この地区に住んでいて良かったと思えるのかなと思う。このガイドブックを見る限り、どこにでもある学校だと思う。4-3-2で研究発表をしている学校に勤めているのでメリットも感じているし、中1ギャップが解消されている現場も見えてきているが、保護者として通わせたいかという、まだ快く思えない。教育委員会だけでは片付かないと思うが、市をあげて意見を反映させて、一人でも多くの方が次に進める事の出来る状況を作ってもらいたい。</p>
鈴木教育長	<p>現場で働いている先生の声という事で貴重な意見だと思う。今現在で知らせる事の出来る内容になっている。この後、教育課程部会など内容を練る部会もあるので、より魅力になるような検討を重ねていく。</p>
出席者	<p>こんなに紛糾しているのは内容が薄いからだと思う。これを見て義務教育学校に行きたいと思えるのか。10年間のノウハウを蓄積して反映させますと言うが、その学校を卒業した人は被験体なのかと思ってしまう。市長、行田市、教育委員会の都市計画性のなさだと思う。人が流出してしまうから、このような問題が起こる。以前、荒木小と須加小の合併の話が同じようにあった。その時に市に要望をしようとしたら、市の担当が来ていないから、教育委員会では発言できないと言って、持ち帰った。帰ってくるのかと思ったら、市・教育委員会からは帰ってこなかった。色々な意見が出たが、それも義務教育学校の内容が薄すぎるからだと思う。多国籍で色々な方がいるが、いきなりグローバルと言われても感じる。英語の学習においては、行田市は素晴らしいと思っている。遊ぶ時間ないという事については、子供達は柔軟性があるので、時間がなくても濃さを求めて遊びに行く。時間の使い方の重要性を教える先生がいるのかと言ったら、学習指導要領は今までと同じなのに、先生達も困ってしまう。多分、色々な事を詰め込むと思う。どちらかという私は義務教育学校に賛成だが、10年したら判断する部分、市と教育委員</p>

	<p>会にビジョンがない状態が駄目だと思っている。ハード面も、他の地区から来たらキツキツになってしまう事がわかっているなら、このように対処するという答えがこの場であれば納得できる。ソフト面も、行田市No1、県でも一番を目指したいと言うが、内容が書いていないから無理だと思う。私立の中高一貫校のパンフレットでも学習の内容が細かく書いている。絶対落ちこぼれが出る。その落ちこぼれ対策はどうするのかもない。逆に吹きこぼれも出る。もっと勉強したいのに他の子がどうしようもないからどうするかと言ったら、中学校受験すると思う。この学校に入れて中学校受験できるのかも問題がある。それはその家庭でどうにかするだろうから良いと思うが。いじめ問題もある。9年間同じ生徒になって、いじめが起きた時の対処は厳しいと思う。その対策も書いていない。中高一貫校では専任の先生がいた。あらゆる面で対策不足だと思う。なのに、学校ありきで話が進んでいる。10年後にはなくなるらしい。それどころか北部から学校がなくなるという話だが、それは都市計画性のなさである。行田市全体で考えてもらわないと行田市の子供がいなくなるだけでなく、人間がいなくなる。財政も来なくなる。魅力がない。市長にも喫緊の課題であると思ってもらわないといけないと思う。地域の意見も聞いてもらわないと孫たちどうするのかとなってしまう。持ち帰ってもらって、教育委員会だけの問題ではない。もう少し具体案を地域住民にわかりやすくしてもらわないといけないと思う。話を聞いていると、要望書を出したけど返ってこなかったという話だが、この要望の答えをいつ返すことが可能なのか。必ず、ここで挙げた事の開示はしないと、この計画は頓挫すると思う。あまりにも教育がおろそか、杜撰すぎると思う。こういう意見が出ましたという議事録的なものに対して、市長、市、教育委員会からの回答がもらえるのか。</p>
吉田部長	説明会の議事録は公開する。
出席者	誠実な回答をもらわないと住民や保護者は納得いかないと思う。
吉田部長	義務教育学校の今後の進め方は、保護者の意向調査を踏まえて立ち止まるか、進めるか、見直して進めるかについては判断していく。その時に、市民の皆さんに示していく事になるので、そういった形で返すことになる。
出席者	内容が杜撰だと言われているから、私達が納得できるような、さらに刷新した細かくできているものにしていかないと、堂々巡りになると思う。

吉田部長	順次作成していく。
出席者	いつまでという事は指定せずに順次やっていくけど、どういう方法で発信していくかも今の状態ではわからないし、もしかしたら市報で少しだけ流すかもしれないという感じか。
吉田部長	市報やホームページを活用して、決まった事は発信していく。
出席者	前の会議で、地元の協力がないと進められないと言っていたが、8割の反対という結果が出ている事に対してきちんとした回答がない。保護者からの意向を取って考えるというが、地元の反対については参考にするしかない。協力についてはどう考えているのか。
吉田部長	地元の意見は重く受け止めている。今、進めている計画を要望書が出たからすぐに中断するという判断はすぐにできない。通学区域審議会や準備委員会などに報告して、最終的にどうするのかを判断していきたい。地域の意見は、その中でも報告していきたい。
出席者	地元の協力がないと進める事が出来ないという話に対して、今回の結果はどのようにとらえるのか。
吉田部長	地域の意見と保護者の意向を含めて判断していく。
出席者	12月議会に提案というが、今の状況でやっていくというのはまずいと思う。長野県の大町市では、地元の話し合いを何十、何百をやった上で、地域の学校をどうするかを進めてきたという話を聞いた。昨年夏に初めて説明会があって、非常に唐突な感じがした。地域に説明が行き渡っておらず、保護者にも一部しか来ておらず、合意が得られていない状況のまま、議会へ提案するのは無謀でないか。まずは原点に立ち返って、複式学級の解消は十分な教育環境が整っていない状況なので、どうするかという話し合いを各地域で進めた上で、もう一度義務教育学校が本当に良いのかどうか話し合いを積み重ねていく事が大事だと思う。
吉田部長	12月議会はすぐそこに来ている。そういった中で、出来るだけ早く今後の進め方について判断しなければならないと考えている。
出席者	費用について書いていないが、義務教育学校の時の改修費用や小学校

<p>吉田部長</p>	<p>の時の統合費用を対比した資料は示してもらえるのか。税金の使い方で知りたいと思っている。</p> <p>義務教育学校の設置管理条例は議会に提出していない。改修費用などはこれから積算していくものなので、現時点でいくらかかるかは話せない。3校で一緒になった時は引越し費用程度になると思う。</p>
<p>出席者</p>	<p>保護者説明会では中学校の処遇について触れられていなかった。見沼中は将来的に70人になってしまう事についてどうするのか。一番、目を向けなければならない所が抜けているのではないか。70人で何がやれるのか。小学校と付けられた中学生がどれほど大変な思いをするのかについて思いが及ばないのか。もともと、再編成計画は複式学級解消から始まった。義務教育学校の設立は全く関係ない。義務教育学校が駄目になった場合でも複式学級解消は必ずやると市長も部長、教育長も言っていた。荒木地区の前でも、義務教育学校が反対になった場合でも複式学級解消は令和4年に必ずやると示してもらいたい。北河原小の説明会の場で、北河原小は中学校段階で見沼中と南河原中を選べるが、義務教育学校が出来たら学校を選べるかという質問に対して、選べると言った。義務教育学校に入学するか、南河原小に入学するかは自由という事だった。そうすると再編成計画の土台が崩れると思う。3小学校と1中学校から義務教育学校を作るというのに、一つの小学校が来ないとなれば、元から計画を練り直す必要があるのではないか。保護者にアンケートをしているが、荒木地区の署名は信用できないという事か。用紙には無記名で賛成か反対かと小さいブランクがあるだけだった。これにどれだけの責任があるのか。荒木地区の署名は住所と氏名と子供の名前まで書いている。教育委員会の望む義務教育学校賛成が多いという結果になった時は、アンケート結果を重視するのか。荒木地区は保護者も8割が反対の署名として住所、氏名を書いている。それは信用できないということか。12月議会に出さないと決めたものに対して、少し手心を加えて3月議会に出すという様な姑息な事はやらないでもらいたい。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>中学校の処遇についての話は、中学校同士の統合はないのかに繋がると思うが、中学生の学習や生活については、質の高い教育をすることによって、中学生の力を伸ばしていく。学校生活には配慮していきたい。保護者の意向調査や署名を踏まえて、義務教育学校が進められなくても令和4年の複式学級解消は実現したいと考えている。3点目は、北河原小の選択性で義務教育学校の土台が崩れるとは考えていない。全てが南河原に行く訳でなく、義務教育学校に来る人もいると思う。アンケート</p>

	<p>について、匿名だからこそ書ける内容もあると思うので、同じような重さで考えていく。12月議会に提出しなかったものを3月議会に提出する事については、ここでは話せない部分がある。12月議会に出さないという事は一度立ち止まるという方針の表明になる。そこで、これまでいただいた意見や署名などを基に考えていきたい。</p>
出席者	<p>12月議会に出すのが既定路線の様な感じになっている。現段階で議員にも説明がない。地域住民の声を聞いているのかという事で疑問の多い回答が多い。議会サイドをどのように思っているのか。</p>
吉田部長	<p>議員には平成31年2月か3月に議員説明会の中で示している。その後改選があったので、新しい議員にはしっかり説明する機会がなかったのは申し訳ない。近いうちに議員に説明をしていく。</p>
出席者	<p>Q16で県内1校、全国126校の義務教育学校があるが、この学校は変えたことでこんなにうまくいっている、子供がこれだけ成長してくれたというような情報を集めた事と思う。行田市の北部の子供も同じように育てほしい、行田市全体もそれに続いてやっていきたいとするのであればなってほしい。うまくいったケースの資料はあるのか。これから資料を作れたりするのか。</p>
鈴木教育長	<p>配布用としては作っていない。義務教育学校に踏み出す際には、市内小・中学校で小中一貫教育を5～6年研究した。文科省の視学官から義務教育学校になった学校の学力が上がったデータも示してもらった。9年間の教育目標を共有している事、目指す児童生徒像がはっきりしている事、教科担任制が導入されている事、9年間のカリキュラムが出来ている事、学校運営協議会で学校を応援している体制ができている事などいくつかの条件がクリアできている事で、学力状況調査のA問題で4～5ポイント、B問題で5～6ポイント上がっている。義務教育学校のメリットはあるが、しっかりとした体制がないと駄目だと示してもらった。義務教育学校になった段階から3年ごとに成果のデータを取っている学校があるが、学力面では向上して、学習意欲が上がっており、異学年交流や学年に絞ったリーダー性の育成ができるので自己有用感もあがっている。市川市の義務教育の成果の調査結果をもらっている。</p>
出席者	<p>文科省のデータは小中一貫教育の効果の事で、義務教育学校だけに絞っていないのではないのか。学習の成果があったというのは、市川市の義務教育学校だけではないのか。たった1校の成果に基づいて判断してい</p>

鈴木教育長	<p>るのではないか。市川市の義務教育学校はクラス替えのできる規模であるかどうかはわからないが、ここで開設しようとする義務教育学校は文科省が手引きで示している規模感とは大きく違って、9学年通じて1クラスしかない。それはクラス替えがないので人間関係が固定化されてしまい、学習意欲にマイナス面があると思う。9年間一貫した学校に進みたいという方が減るかもしれない問題もある。一般的な義務教育学校と規模が違う小さな学校という事で、一般的に考えられる義務教育学校のメリットはもたらされるものなのか。</p> <p>義務教育学校も千人規模から百数名の規模がある。行田市が視察に行ったのは栃木県の絹義務教育学校だったが、データ化されたものは数少ない。塩原の義務教育学校へも行ってきたが、説明資料の中で学力向上、学習意欲の向上、豊かな人間性が育まれていると話してもらえた。経年でどうなったかについては、データをきちんと取っている情報は先ほどの千葉の学校しか手に入っていない。美麻小中学校では96人でも学力向上している。学力向上のために、補填するような学習の内容や教科外の学習も組みながら、対応しているとのことだった。社会性や人間関係、リーダー性については下級生が上級生を尊敬しながら育まれていくものだと思う。</p>
出席者	<p>はっきりしている事は、義務教育学校や小中一貫教育の効果は蓄積されていない。もし、義務教育学校を作った場合、10年間ノウハウを蓄積して、より良い学校を作る説明があつたが、きれいな言葉ではノウハウの蓄積だが、悪く言えば実験材料にされてしまうという事。効果が出なければ10年間の皆さんは効果なしで終わってしまう。きれいな学校にするからそれで良いだろうという風にも考えられる。実験的な事をここでやる価値はあるのか疑問がある。義務教育学校は2～3クラスの規模でないと成立しないと思う。中学校の規模も大きくなならない。実験材料に使われるのではないかと心配を保護者も地域も共有している事だと思う。</p>
鈴木教育長	<p>決して実験とは捉えていない。1年というのは子供にとって取り戻せない1年だと思う。それだけの、最大限の指導と教育、教員の配置を考えながらやっていきたい。</p>
出席者	<p>1点目は12月議会に出す議案の具体的な中身は。2点目は学力向上についてだが、私も小学校の教員をやっていたが、その時も忙しく、今はますます忙しくなっている。コロナで何倍も忙しいと思うが、乗り入</p>

	<p>れ授業で小中の免許を持った教師がどちらも教えるという事だが、あくまで免許なので、例えば英語の先生は、ずっと中学校の英語の先生をしている中で学んでいく。小学校の先生が全教科教えていて英語の免許を持っていたとしても、どれだけ使えるかという疑問がある。授業をするに当たって、何年もかけて研究をしていく内に力を付けていく。免許があるから教えらえるというのは考え方が浅いと思う。多忙の中でとてもできないと思う。中学校の先生も同じで、子供の扱いも違うし、生活指導もあるので、小学校にいつてもすぐできない。教育委員会にも学校の経験者入ると思うのでわかっていると思う。説得力がないと思う。6年が終わって、中学生になる時に教科や部活に対する新鮮な喜びがあると思う。6年間に良い思い出がなくても、中学校で心の切り替えが出来ると思う。学年を小刻みにした時の効果が理解できない。中高一貫を見た事もあるが、2人校長が必要だったのが1人になって、人件費の節約という事も感じられた。4点目、地域に根差した学校という事で、地域は学校を中心にあると思う。地域が崩れていく、なくなっていく一歩かなと思う。去年の台風の時も体育館や公民館では駄目で、学校の2階、3階に上がる事もあった。学校はどうなるのか。避難のためだけに残すのか。地域に根差した学校、災害拠点としての学校としてどのように考えているのか。</p>
吉田部長	<p>議案については、設置管理条例で北河原小、荒木小、須加小、見沼中がなくなって、見沼さくら小中学校に変えるという議案になる。そこを議論してもらう事により、義務教育学校の準備が進んでいく事になる。義務教育学校部分は、この後判断するが、同じ議案の中で中央小と星宮小は予定通り提出する。4点目の災害の関係だが、なくなった学校の施設の活用は市全体で検討している。体育館は地域の社会体育の拠点として活用できるし、他の目的で活用しながら避難所の機能は残していきたい。</p>
荻原参事	<p>今の教員は本当に忙しい。消毒等もあり、ますます忙しくなっている。学力向上については、専科の教員が高学年を教える事によって、技術や技能等の向上が図れる。中学校の免許を持つ先生が教える事で、より効果が上がる。例えば、Jプランがあるが、中学校の先生が小学校に2年間行く。理科の先生だったら小学校の免許がなくても理科であれば教えられる。小学校の教え方があるので、Jプランで行く先生は十分に準備をしてから行く事になり、実験の器具や操作を含めて指導し、中学校に戻る。小5、6年で教えた生徒を中学校でまた教える。似たような形になるかもしれないが、同じ学校の中で生活している先生が、専科で教え</p>

鈴木教育長	<p>る。免許が両方あった方がより良いという形で進めていく。小・中学校の間には大きな壁があり、中学校の教員が小学生を教える事はハードルもあるので、しっかりと準備していく。</p> <p>小学校を卒業して中学校に入る時の良さについては、6ページにあるが、修了に対する感謝、上級に上がる希望や期待は、7年生の進級式など行事の工夫をしていく。前期課程の修了式、10歳で自分を見つめるという意味での4年生の立志式など節目の式は計画的に組んでいく。人件費の節約の面もあるという事については、義務教育学校は人件費の節約という面でやっているわけではない。義務教育学校にふさわしい教育ができるような人間を配置し、育てていきたいと思う。</p>
出席者	<p>工夫して、困難を乗り越えないとできない義務教育学校には疑問に思っている。地元の反対があればやらないというのは大事だと思う。議会でも地域の理解がなければ進めないという回答を得たと思っている。</p>
出席者	<p>市報に学校の名前などが載っていたが、市報には決まり切った事が載っていると植え付けられている感じがあるので、全て決まっていって変えられないのかという疑問がある。8割の反対があるのに、今までと同じように市報に次から次へと決まりましたと出てしまうのは、心配と思う。市報に出ているものは決まっていって変えられないという意識で見ているが、このままでは市報の見方を変えなければいけないのかと思った。</p>
吉田部長	<p>市報の10月号だと思うが、他の市民からも意見があった。校名は条例改正を経て決定するとしていたが、わかりづらかった。できるだけ多くの方に色々な情報を市報や温故創生で提供している。情報の出し方については誤解を与えないような工夫をしたい。ただ、今後もできるだけ多くの情報を出していきたい。</p>
出席者	<p>荒木小、須加小、北河原小の3校の合併について、どのように考えているのか。</p>
吉田部長	<p>今は義務教育学校で計画を進めている。今後、意見を参考に計画を進める事ができなくなったら、一度止める事も選択肢の一つとなる。今後どうするかという時に色々話し合いを持って、義務教育学校が進められないとなった時に3校の統合も選択肢の中にあると思う。</p>

出席者	是非、3校の統合で考えてもらいたい。
司会	6 閉会